

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	映像企画・取材学(Scenario and Concept)		授業コード	P140151
担当教員名	小島 康史		科目ナンバリングコード	P11401
配当学年	1	開講期	後期	
必修・選択区分	コース必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	情報デザインコースの必修科目です。 情報デザインコースを目指す諸君は、必ず受講しなければいけません。			
受講心得	皆さんの身近な表現メディア＝パンフレット、新聞、広告チラシ、雑誌記事、ラジオ放送、テレビ、ビデオ、DVD、映画などから流される情報を、「対象」と「目的」を考えながら見る習慣を付けてください。			
教科書	教科書は使用しませんが、必要な資料は適宜配布します。			
参考文献及び指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい文章の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) ・分かりやすい表現の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) ・分かりやすい説明の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) ・情報を見せる技術 中川佳子(光文社親書106) ・広告コピーってこう書くだ！読本 谷山雅計著 (宣伝会議) 			
関連科目	情報デザイン入門、映像機器学及び演習、映像構成・演出学及び演習、取材実践・編集学及び演習、情報デザイン総合演習			

授業の目的	<p>どんな映像作品でもスタートは0からです。そこから企画を考え、取材をしていき、企画書をこしらえます。企画書がクライアントや仲間に受け入れられなければ、何事もスタートできないのが、映像世界の掟でしょう。この映像作品を作りたい！こんな映像作品を見てみたい！と思わせる説得力をもつ企画書、つまり企画書のA4の紙こそが、最初の演出表現となります。演出表現は、その映像作家の眼差しとも言えるもので、多くの人々から共感を得られるメッセージが込められたものです。芸術的なセンスも求められはしますが、あくまでもコミュニケーションツールです。つまり、「心に響くメッセージ」が求められています。</p> <p>本科目では、今や情報デザインに欠かせない要素である映像表現のなかでも映像表現のベースとなる企画構成力の習得を目標に、発想や取材分析を交えながら、情報デザイン＝「演出」の基礎を身につけてもらいます。</p>
授業の概要	<p>受講者一人ひとりが、大学近辺の人物を対象にしたドキュメンタリーの企画を考える。どうして、その企画を考えるように至ったのか？ 企画の面白さや発見を通して普遍的なテーマを導き出したい。それに自らの企画意図を伝える企画書を作成し、スタッフの理解を得られるようにしたい。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 企画の発想法を習得する。まずは身近な新聞から題材を選び出し、どのようなところが自分にとって面白いのか検証する。	身近な新聞を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。
第2週： 企画の発表を行い、スタッフと質疑応答をはかり、自分が描く世界観と他者が描く世界観との相違を検証する。	身近な新聞を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。
第3週： 企画の発表を行い、スタッフと質疑応答をはかり、自分が描く世界観と他者が描く世界観との相違を検証する。	身近な新聞を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。
第4週： 企画の発表を行い、スタッフと質疑応答をはかり、自分が描く世界観と他者が描く世界観との相違を検証する。	身近な新聞を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。

<p>第5週： 取材対象者の調査と周辺取材。素材の面白さや発見をすることによって、テーマを探っていく。</p>	<p>身近な新聞を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第6週： 取材対象者の調査と周辺取材。素材の面白さや発見をすることによって、テーマを探っていく。</p>	<p>身近な新聞を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第7週： 取材対象者の調査と周辺取材。素材の面白さや発見をすることによって、テーマを探っていく。</p>	<p>身近な新聞を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第8週： 作品の構成。シークエンスの紡ぎ方の意味付けをナレーションと関連づけて学びます。</p>	<p>身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第9週： 作品の構成。シークエンスの紡ぎ方の意味付けをナレーションと関連づけて学びます。</p>	<p>身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第10週： 作品の構成。シークエンスの紡ぎ方の意味付けをナレーションと関連づけて学びます。</p>	<p>身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第11週： 企画書を作成する。企画意図、制作スケジュール、構成要素、シークエンスプランを完成させる。</p>	<p>身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第12週： 企画書を作成する。企画意図、制作スケジュール、構成要素、シークエンスプランを完成させる。</p>	<p>身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第13週： 企画書を作成する。企画意図、制作スケジュール、構成要素、シークエンスプランを完成させる。</p>	<p>身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第14週： 企画書講評。完成した何本かの企画書を取り上げて講評し、構成上のポイントなどの理解を深める。</p>	<p>身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。</p>
<p>第15週：</p>	

企画書講評。完成した何本かの企画書を取り上げて講評し、構成上のポイントなどの理解を深める。		身近な映像を「対象」と「目的」を考えながら視聴する。また、講義中に気づいた点をメモしておき、そのメモを見返す。
第16週：期末試験		
企画書講評。完成した何本かの企画書を取り上げて講評し、構成上のポイントなどの理解を深める。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目		
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。
【知識・理解】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。
【思考・判断・創造】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。

○成績評価基準(合計100点)

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	5点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		25点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		15点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点	5点	

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	